

今年の漢字は「開」。島田市の10大ニュースを発表

◎秘書課 ☎36・7117

12月25日に行われた定例の記者懇談会で、染谷市長は一年を振り返り「島田市の10大ニュース2014」を発表し、それぞれの経過や実績、そして今後の計画などを説明しました。

また、10大ニュースを受けて染谷市長は、島田市の今年1年を漢字1文字



直筆の「今年の漢字」を披露する染谷市長

で「開」と表現。これには「開拓精神で臨んだ」「島田市の新たなページを開いた」「事業が本格的に開始された」などの意味が込められています。

【島田市の10大ニュース】(日付順)

- ◎リニア中央新幹線建設に伴う大井川流量の減少予測への対応
- ◎子育てコンシェルジュの配置
- ◎大井川鐵道における「きかんしゃトーマス号」出発進行
- ◎川根温泉ホテルのオープン
- ◎新市立島田市民病院建設基本構想および基本計画の策定
- ◎第1回「女性議会」の開催
- ◎ふるさと寄附金事業が好調
- ◎島田市平和都市宣言をお披露目
- ◎牛尾山の開削と第二海軍技術廠牛尾実験所跡遺跡(関連ニュース)
- ◎都市計画道路「横井中央線」(通称・大津通り) 供用開始

自治会長連合会が無事故無違反を誓う署名簿を提出

◎秘書課 ☎36・7117

島田市自治会長連合会は12月4日、無事故無違反を誓う6万1679人分の署名を島田署に提出しました。

署名は、市内68の全自治会を挙げて、昨年8月下旬から実施。小学生以上の住民に、交通ルールの順守や飲酒運転の撲滅などを呼び掛けました。



萩原署長(左)に署名簿を提出する大石会長(中央)と役員の皆さん

第1回「自治基本条例を考える市民会議」を開催

◎企画課 ☎36・7120

12月13日、協働のまちづくりの推進を目的として、第1回「自治基本条例を考える市民会議」が開催されました。

会議はワークショップ形式で行われ、20代から70代までの委員15人が理想とする島田市の形について意見を交わしました。本年度内に会議を4回開き、条例制定の必要性について確認します。平成27年度には、条例の素案を行政と連携してまとめます。会議は平成29年4月の条例施行を目指し、3年間で20回程度の開催を予定しています。

自治基本条例は、さまざまな地域課題への対応やまちづくりを進めるに

あたり、誰がどんな役割を担い、どのような方法で決めていくのかを明確文化したもので、まちづくりの仕組みや基本ルールを定めた条例です。



活発に意見を交わす委員たち

島田市消防団の消防ポンプ自動車2台を更新

◎危機管理課 ☎36・7212

島田消防団第7分団1部(身成)と第13分団1部(川根町家山)のポンプ車各1台が更新され、12月22日にプラザおおるりで「引渡し式」が行われました。新車両は、ともに四輪駆動車で6人乗り。従来のポンプ車と比較し、大型真空ポンプを装備することで、揚水能力が向上しました。

大石和己消防団長は謝辞で「島田市を災害から守るため一層精進していきたい」と決意を述べました。



市長から目録を受け取る大石団長

## 市立図書館と静岡福祉大学が相互協力の協定を締結

④図書館課 ☎36・7226

島田市立図書館は12月24日、静岡福祉大学附属図書館と相互協力に関する協定を締結しました。協定の目的は、図書館活動の幅広い連携と、所蔵する情報資源の有効活用。互いの蔵書（バリアフリー図書など）をそれぞれの利用者が取り寄せて利用することや、共同企画の推進、学生の実習の場の提供を円滑にするなどのメリットがあります。

また2月には、島田図書館を会場にバリアフリー図書などの企画展を開催する予定です（22ページ参照）。

※「バリアフリー図書」とは、布や凹凸のある厚紙などで作られ、手

や指の触覚で楽しめる工夫を凝らした視覚障害者向けの絵本などを指します。これらの絵本は、目でも楽しめる仕掛けやさまざまな材質による触感などが施されており、視覚障害の無い人でも楽しめる内容となっています。



バリアフリー図書を前に協定書を手にする太田学長(右)と市長

## 災害救助に必要な物資等の提供に関する協定を締結

④危機管理課 ☎36・7143

12月16日、志戸呂・大代の両自治会は、同地区に新たに立地した株式会社タカラ・エムシーと、災害救助に必要な物資等の提供に関する協定を締結しました。

この協定により、地震・風水害・その他の災害が発生した際には、自治会の要請に応じて同社が保有する食料・飲料水および一時的な避難スペースが、地域住民に無償で提供されることとなります。



左から染谷市長、上野タカラ・エムシー代表取締役、鈴木自治会長(志戸呂)、杉山自治会長(大代)

## 消防関係者の活躍で木材チップサイロ火災が鎮火

④危機管理課 ☎36・7143

12月31日、特種東海製紙(株)島田工場内(向島町)の木材チップサイロで火災が発生し、広範囲にわたって煙や木材の焦げた臭いが充満しました。

市消防本部および同工場によると、この火災で鉄骨造りのサイロ(約4840㎡)と収容していた木材チップ4376tが全焼。煙(無害)は西風に流され、一時は幅2〜3km、長さ約10kmにわたって広がりました。

サイロは密封構造で開口部が無いことや、燃えやすい木材チップが大量に保管されていたことなどから、消火活動は難航。重機で壁を壊して開口部作り、放水しながら倉庫内のチップをかき出す作業が繰り返し、夜を徹して続けられました。

市消防団と市消防本部および同工場特設消防団による懸命な消火活動



立ち上る煙の中で続けられる消火活動

により、火災の発見から約84時間後の1月3日に鎮圧。5日午後には鎮火し、5日間で消火に携わった人員は延べ約2940人、消防車両は延べ約320台にのぼりました。

市としても火災発生に伴い、消火活動に加えて同報無線・防災無線・車両による広報活動や、ホームページやフェイスブックなどによる情報発信を実施。また、周辺自治会や隣自治体への連絡や緊急避難所の開設など、市民の皆さんの不安軽減に努めました。

市民の皆さんには、煙や臭いの拡散によるご迷惑やご心配をお掛けしました。今後は、市消防本部と島田警察署が原因究明を進めます。今回の火災に伴う各種相談については、特種東海製紙(株)の火災相談窓口(平日午前9時〜午後5時 ☎36・5152)をご利用ください。



サイロ内部の木材チップ搬出作業